

柳屋



三重県神道青年会報 第18号

只頼 一灯

会長 山本行恭



顧みれば、国内外共に大きな波乱にまみれ、大変な勢いで様変わりとなり、ついには凄まじい経済発展の蔭に大きな落とし穴があった。又、ソビエト連邦の消滅と言う歴史に永く記録される事態で、兎も角も一年は終焉を告げた。これらの世相変化に伴い、我が青年会も新たな変革の兆しを展望し、社会奉仕に傾注する為の新委員会発足によって、新進気鋭の役員人事でスタートした。

当然ながら神宮のお膝元にある青年会として「御遷宮特別委員会」を設け、真近に迫った第六十一回式年御遷宮に向けて、対外的に啓蒙を促進するための手段として、

先ずは「音羽ゆりかご会」による遷宮イメージソングコンサートを市内の小中学生の合唱団と共に合同コンサートを開催。学校で教えもしない遷宮の大きな意義を、爽やかな歌声を通して広く一般に紹介したのみならず、内的にも若い神職や新任神職を対象とする啓蒙活動にも力点を置いた。又、従来の渉外委に「福祉委員会」を併せさせ、地域社会への貢献を目標とした事業を推進。先ずは噴火被害を浴びた方面への義捐金活動を始め、青少年を集めての屋外活動等も心の空白を埋める一助として開催した。まだ発足一年次の為、今後も多に肉付けをして社会のニーズに対応する方策を立て、総ての委員会共々の特色を活かして、徐々に大きな輪と展開させたいと願っている。

さて、世界経済の下降に伴う社会現象は、ともすれば人間として

の本質を亡くす恐れさえあり、現状からの回復に躍起となりつつも心の支えを必要としている折りから、平成五年秋には「心のふるさと」が装いも新たに蘇生される。この時点で完全な軌道修正を計り立ち直ることが条件と見なされる。例えあらゆる状況にあろうとも、心の拠り所を求める本来の日本人になることが必要であろう。

七十年前の大正十一年、世界の大科学者・アインシュタイン博士は、来日のメッセージに、日本は世界的な盟主として称賛している。その中で「吾々は神に感謝する。吾々は日本という尊い国を造っておいでくれたことを」と結ばれた。誠に意義深い言葉である。しかしその後世には正に、清濁併せ呑んで新たな物を産み出そうと、外国文化を取り入れ、良きを学び悪しきを禊祓いして、ついには高度な道義国家の統一を成したとは言え、中心を亡くした日本人は魂の脱け殻と化した。物質文明は世界を越え、平和で自由な経済大国となった時、最も恐れられる事態が起こった。世界の大科学者をして「世界の盟主」と言わせしめた誇りは何処に消え去ったのか。

薩摩藩の偉人、西郷隆盛は自らの意志に基づき、幕府の弾圧をものともせず多くの事業を遂行し、最後に西南の役で城山に散ったといえ、終始不変、神仏を敬慕し「至誠」を貫き徹したのは有名であります。

提一灯行暗夜。勿憂暗夜。只頼一灯。

今や日本は真の文化国家となるために、心の時代を取り戻さねばならない。幸いに天皇を戴いている世界に類の無い国として、暗夜の一灯に頼るべきではなろうか。何の憂いも持たず、只一心に先祖から培われた素晴らしい伝統の光を深く胸に頂き、あらゆる国の歴史を抜き越えた最も古く、最も尊い家柄である日本の心に立ち返ることによって、本当の文化国家たらしめる事になると信じます。

千三百年の永い歴史を持つ『第六十一回式年御遷宮』は既に九十九%まで完成していると聞く。あとの1%に国民全体が力を添えてこの偉大なる事業の完遂を最大の目標とするのが、人としての重大な役目だと存じます。

副会長の声 一年を顧みて



副会長 松井宏頼 (総務広報担当)

三重県神道青年会副会長を任ぜられて早や一年が過ぎました。前宮川副会長より青年会の行事等を聞き、私の力で副会長がつとまるのかと不安でしたが、御推薦いただいた以上勢一杯努力して皆様の足手まといにならぬよう、また山本会長のもと増田、奥出副会長とで三人四脚となり、もう一年頑張りますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

私、神宮に奉職いたしましたして十四年目になり、十五年目の来年度は式年遷宮の年を迎えようとしております。式年遷宮につきまして思うこと、感じることを、これは目指すところは皆様と一緒に、どうして最もと申しませうか、

井の中の蛙大海を知らずで、大局観の無い考えに陥ってしまいます。このような時県の青年会の副会長をさせていただき、一歩でも外へ出て式年遷宮について会員の皆様又は氏子の方々の話を拝聴できる機会を得られましたことは大変な勉強となりました。会員の皆様の式年遷宮に対する心を肌で実感し、その心意気と実行力に圧倒され続け、我が身に鞭打って努力する気持ちを再確認いたしました。

さて、私常々思うことそれは神道青年会はもとより、神社界、宗教界、大きくは日本から世界にまで視野を広げ、先程の「井の中の蛙」が井より飛び出して、己れの立場をわきまえながら今何を神道青年会は日本、世界は目指しているのか把握することだと思えます。そして神道青年会が日本、世界の諸問題解決の一助となれるよう頭を柔らかく、又ある時は頑固に徹し研鑽しながら一段と飛躍することを望んでいるのは私一人だけで

はないでしょう。

ここ数年の日本、世界の情勢に目を移しますと高校の日本史、世界史の教科書に太字で書かれる程の問題や事件、事変が繰り返されています。世界は一日一日変化し、人の心も千差万別、何に己れの夢を託すのか心の羅針盤を失い死んでいく人も多勢いるでしょう。

平成景気も終りましたが、まだ経済的には日本は世界の機関車の役割をしています。欧米諸国からバッシングされようと機関車は石炭を放り込まなくては旅客、貨物（世界）は動かなくなってしまう。

敗戦後日本が今のこの地位にあるのも国民の努力はもとより、民族の誇りが心の支えとなつて原動力の源となつていたのでないでしょう。

来秋に斎行されます御遷宮は日本人の心の支えであり民族の誇りと申せましょう。神社界の一行事では無く日本のいや世界の明日に明るい光を差せればと願ってやみません。限られた人数と限られた時間と予算、神道青年会の心意気だけでも高く持ちたいものです。御遷宮に關しまして日頃会員の



副会長 増田秀樹 (教化研修担当)

昭和五十八年、当時第二十代富永会長の指名を受け理事に就任以来八年間、微力ながら少しでもお役に立てればと、神社神道興隆の為に勤めさせていただきました。

平成三年度役員改選により副会長という重役を山本会長より指名を受けましたが、私の本務神社での一世一代の大事業である御大典奉祝事業の一環としての拝殿御造営事業に着手したところで、重役をお引き受けしたのでは、会運営に支障をきたし、また役員始め会員諸氏にご迷惑をおかけするのではと、一度はご辞退申し上げたのですが、山本会長の強い熱意と暖かい支援に甘え、就任させていた

だきながら、充分な活動ができなかったことを、心苦しくお詫び申し上げます。特に金山教化研修委員長始め委員会メンバーには申し訳なく、役不足の私と共に、諸事業を熱心に取り組み、忠実に実践活動を成し遂げられた事に対し厚くお礼申し上げます。

教化委員会事業も、各種研修会第七回神社スカウト全国大会奉仕大麻頒布促進活動・雲仙普賢岳災害義捐運動等、特に第十六回お宮の子供会では、本会顧問宇流富志称神社中森宮司を始め大勢の方々にお世話になり、事故もなく楽しい思い出深いキャンプにお力添えを戴いた皆様に感謝致します。

また、今期より平成五年秋に執り行われます第六十一回神宮式年御遷宮に向け、遷宮特別委員会を設け、嵯峨井委員長を始め、担当委員会には、遷宮啓蒙運動の先駆けとして、遷宮イメージコンサート(音羽ゆりかご会)の開催、遷宮研修会実施等を手掛け、更に来る五年に向け、諸活動の実践を三重神青として、一丸となって充実した啓蒙運動を積極的に展開し、神宮当局に対し万全な協力体制で取り組む事を心掛け、青年神職ら

しい活動を果たし力の限り若いエネルギーを会員と共に燃焼させたいと思っております。

最後に本年の役不足と活動不足を補う為に、更に神青発展の為に努めさせて頂き、神社界を始め一般社会より高く評価される組織作り、会員諸兄のご理解とご協力をお願い致し、皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げます。



副会長 奥出克尚 (渉外福祉担当)

昭和五十八年度、第十二代富永会長より理事を拝命以来、森本会長、村田会長そして山本会長の下に理事として会に参加、活動させて頂きました。今期、副会長という大役を仰せ付かわり、その責務の重大さと、浅学非才な自分を痛感している昨今であります。特に、第六十一回神宮式年御遷宮を来年に控える大変重要な時期であり、我々、神宮御膝下の三重県神道青年会にとっては、更に多忙な時期であります。会員一同、心を一つに、力合せて邁進できる様

頑張つて務めさせて頂きたいと思っております。

私の担当する委員会は、渉外・福祉委員会であります。村尾委員長、上嶋副委員長の中心に良くまとまり、和気藹々はこの一年活動してまいりました。そして、本年度より新たに「福祉」という大きな目的を掲げる委員会として、昨年は長崎県の雲仙普賢岳噴火被害救済援助活動、支援募金を致しました。我々神職としては、御神前にて御祈願申し上げるのは当然であります。それだけで無く、もっと対外的に活動をしていく事が今後大切であります。一口に福祉といっても範囲が広く、大変難しい事ではあります。神道人として世の為、人の為に奉仕する心を持って、出来る事から一つでも多く始めて行かなければなりません。そして世の中に神社界をもっとアピールする事も考えて行くべきであります。昭和二十四年

社会情勢が渾沌とした中で、国家の再建と神道興隆の為に当会は発足され、先輩諸兄の御努力と並々ならぬ情熱により、今日の会の礎を築かれました。我々も情熱と努力をもって「今始めなければ、何

時始める」という気で、この福祉活動を初め、時代に即応した新しい活動を行なっていかなくてはなりません。そして、その為には何んといつても会員相互の連帯意識団結力が必要です。親睦行事を担当する渉外としての役割は大であり、より多くの会員に参加して戴き、多くの人との出会いの場、勉強の場としての楽しい事業計画を企画して行かなければなりません。お互い気心を知り合つてこそ、良き活動が生まれて来るものであります。ひと頃流行した「友達の輪」ではありませんが「神道青年会々員の和」を大切に考えて行きたいと思っております。

残り約一年間、副会長の名を汚さぬ様に、自分なりに出来る限りの努力をして、山本会長の下、頑張つて務めさせて頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



第7回 神社関係スカウト 全国大会に協力

8月8日~10日



第七回神社スカウト全国大会(以下神S大会)が、約五千人を集め八月八日より伊勢の県営陸上競技場にて開催されるにつき、神道青年会に会場清校の依頼があり、同日快晴のもと、奥出副会長以下六

平成三年度 事業報告

清祓奉仕

名の会員により奉仕した。奥出抜主の抜詞奏上のもと、会員が奉仕する大麻、切麻以下諸員による会場修祓を行う簡単なものであったが、スカウト隊員の元気な息吹に我々の心も洗われる思いであった。

禊行事奉仕

三日間にわたる神S大会の諸行事が盛大に繰り広げられる中、九月十日の両日、山本会長をはじめ、会員有志参加のもと禊行事が行われた。午前六時、各団ごとに集合・整列の後、約三百名が一団となり五十鈴川へと出発。現地にて禊、鉢巻き姿(女子は白衣)で振魂、次に鳥船、続いて禊行事へと入った。禊中は全員が抜戸大神の御名を奉唱し、のち鳥船、改服という次第で実施された。

両日とも天候に恵まれた今回の禊は、数多い神S大会の行事の中でも一つの鍛錬として、スカウト諸君の心に深い印象を与え、またこの鍛錬が今後の神社スカウトの活動の糧となるよう期待したい。

新入会員歓迎

平成三年六月三日、恒例の「新入会員歓迎ボウリング大会」が、新会員十二名と花を添える女性陣十一名を迎え、総勢四十七名の参加者を得て開催された。

ボウリング大会

会場となった津グランドボウルでは、僅差を争う熱戦が展開され、その結果は、団体の部優勝・北部B、準優勝・南部B、個人の部男子優勝・池田陽一(椿大神社)、準優勝・種村睦(金井神社)、三位位・村尾憲一(飛鳥神社)、女子優勝・山畑純(三重県護国神社)、準優勝・佐野杉(椿大神社)、三位位・神戸浩美(頭之宮四方神社)、新人賞・野村卓秀(神宮)の通りである。

◎平成三年	
四月十一日	三重県神社総代会定例総会 会員二十名奉仕 於・神宮会館 二十二日
二十六日	神青協第四十三回定例総会 会長以下三名出席 於・本社本庁
五月七日	平成二年度定例総会 会員三十二名出席 於・三重県本社庁
六月三日	平成二年度卒業式 会員二十九名出席 於・榊原グランドホテル
七月一日	新入会員歓迎会 会員他四十七名参加 於・津グランドボウル 三重県本社庁
七月一日	第二回役員会
七月一日	第三回役員会
七月一日	平成三年度会員名簿発行
十六日	第四回役員会
二十日	「神青通信」発行

会務日誌

第61回 神宮式年御遷宮 イメージソングコンサート開催

『悠久』ほか 童謡を披露

音羽ゆりかご会を迎え
去る八月九日、鈴鹿市文化会館において、第六十一回神宮式年御遷宮のイメージソング『悠久』を歌う音羽ゆりかご会を迎え、遷宮イメージソングコンサートを開催した。このコンサートは、平成五年秋にとり行われる二十一年一度の神宮式年御遷宮を少しでも多くの皆さんに知って頂き、日本人の生き生きとした感



『悠久』を歌う音羽ゆりかご会
於・鈴鹿市文化会館

性を呼び覚ましてもらおうと、神青会主催により開催されたもの。夏休みとあつて、会場は親子連れの聴衆が詰めかけ、『悠久』をはじめ昔懐かしい童謡など、ゆりかご会の澄んだ歌声に一同童心にかえり、暫し魅了されていた。また当日は、鈴鹿少年少女合唱団と津市出身の若きピアニスト佐々木宏子さんが特別参加、素晴らしい音楽に万雷の拍手が送られ、楽しいコンサートとなった。最後はゆりかご会と合唱団とのジョイントコンサートで幕を閉じた。

お宮の子供会

第十六回を迎えた恒例のお宮の子供会は、去る七月二十九日から三十一日の三日間に亘り、名張市平尾の宇流富志祢神社において行われ、四十四名の子供が参加した。今回は、亀森和風氏を迎えての土笛作りやコンサート、また日本野鳥の会・武田恵世氏を講師としての野鳥観察などを中心に、櫻やぶどう狩り、キャンプファイヤーなど盛りだくさんの行事が組み込まれ子供等は夏の暑さも忘れ楽しそうに取り組んでいた。

神宮神青との 合同研修会



平成三年八月三十・三十一の両日、「神宮神道青年会・三重県神道青年会合同研修会」が、神風の伊勢の地、熱弁する藤岡先生 奥文旅館を会場に、神宮二十五名・三重県十五名の参会を得て開催された。夕刻五時半、開会に引き続きの合同研修では、神宮祐宜・総務部長の藤岡重孝先生に「大麻領布と神宮式年遷宮」と題する講演を頂き、活発な質疑応答がなされた。のち、藤岡祐宜、宇治土公貞明氏（特別会員）の両氏を交えての懇親会がもたれ、台風の襲う悪天の中にも拘らず、二次、三次の集いが夜更けまで続けられた。

翌早旦、一陽来復の朝日差し添う中の豊受大神宮参拝。朝食を以て散会、各々奉務神社に戻った。

二十九～三十一日
第十六回お宮の子供会
於・宇流富志祢神社
八月六日 第五回役員会
八日

第七回神社スカウト(神S)
全国大会開会式清拔奉仕
副会長以下会員六名奉仕
於・県営陸上競技場
九日
神S全国大会禊道彦奉仕
会長以下十八名奉仕
於・五十鈴川
九日

第六十一回神宮式年御遷宮
イメージソングコンサート
会長以下会員十六名奉仕
於・鈴鹿市文化会館
二十九～三十日
神宮神道青年会との
合同研修会
会長以下会員十五名参加
於・伊勢市 奥文旅館

九月五日 第六回役員会
五～六日
東海五県神青協教化研修会
会長以下十七名参加
於・熱田神宮会館
十八～十九日 研修旅行
会長以下十四名参加

研修旅行を実施

併せて滋賀神青と合同研修

去る平成三年九月十八・十九の両日にわたり、一泊二日の日程で、滋賀方面を目的地としての県外研修旅行が行われ、会長以下会員十四名が参加した。

今回の研修旅行では、会員のより一層の懇親を深めることは固より、県外神青との合同研修会をもち、活動報告をはじめ、相互の親睦をはかるなど、意義あるものとする事が考慮された。

台風の接近に伴い天候が心配されたが、一日目は秋晴れに恵まれ、建部大社及び日吉大社を社頭参拝。続いて近江神宮にて正式参拝の後、



同社佐藤久忠宮司より丁寧なる講話を賜り、一同宿舎・紅葉パラダイスへ。夕刻より、滋賀県神青との懇親会が催され、そ

れぞれの活動報告、意見交換など親睦の輪をはかった。

二日目、残念ながら近畿地方は台風が接近。予定されていた日程を繰り上げ、早々と帰路についたが、今回の県外研修旅行は、今後の活動の足がかりとして、大変意義あるものとなった。

東海五県神青協

教化研修会

去る九月五日・六日の両日、熱田神宮会館を主会場として、『東海五県神道青年連絡協議会並びに教化研修会』が、愛知県当番により開催された。

研修会には各県より計九十一名が参加。猿の研究で名高い名古屋学院大学国際交流センター長・広瀬鎮先生をお迎えし「猿と日本人ー日本人の猿観を追ってー」と題する講演を拝聴。一同身近な猿に対する動物観を通じ祖先の信仰に触れた。

翌日は、前年三重県主催で好評を受けた形で、ポウリングによる懇親会がもたれ、個人・各県対抗の成績に一喜一憂、大いに意気あがる懇親会となった。

御遷宮・禊研修会

平成四年三月五・六日、神宮司庁並びに神宮会館に於いて「御遷宮・禊研修会」が開催され、総勢四十一名の参加のもと、熱のこもった研修会となった。

一日目は御遷宮のビデオ鑑賞とテーマを「御遷宮と皇室と国民」「御遷宮と氏神さん」「御遷宮と自然保護」としての分科会が行われ、二日目は午前六時、五十鈴川にて禊ぎをし、その後全体会が開催された。特に次回(第62回)御遷宮へ向けての有意義な研修だった。



全体会が催された。特に次回(第62回)御遷宮へ向けての有意義な研修だった。

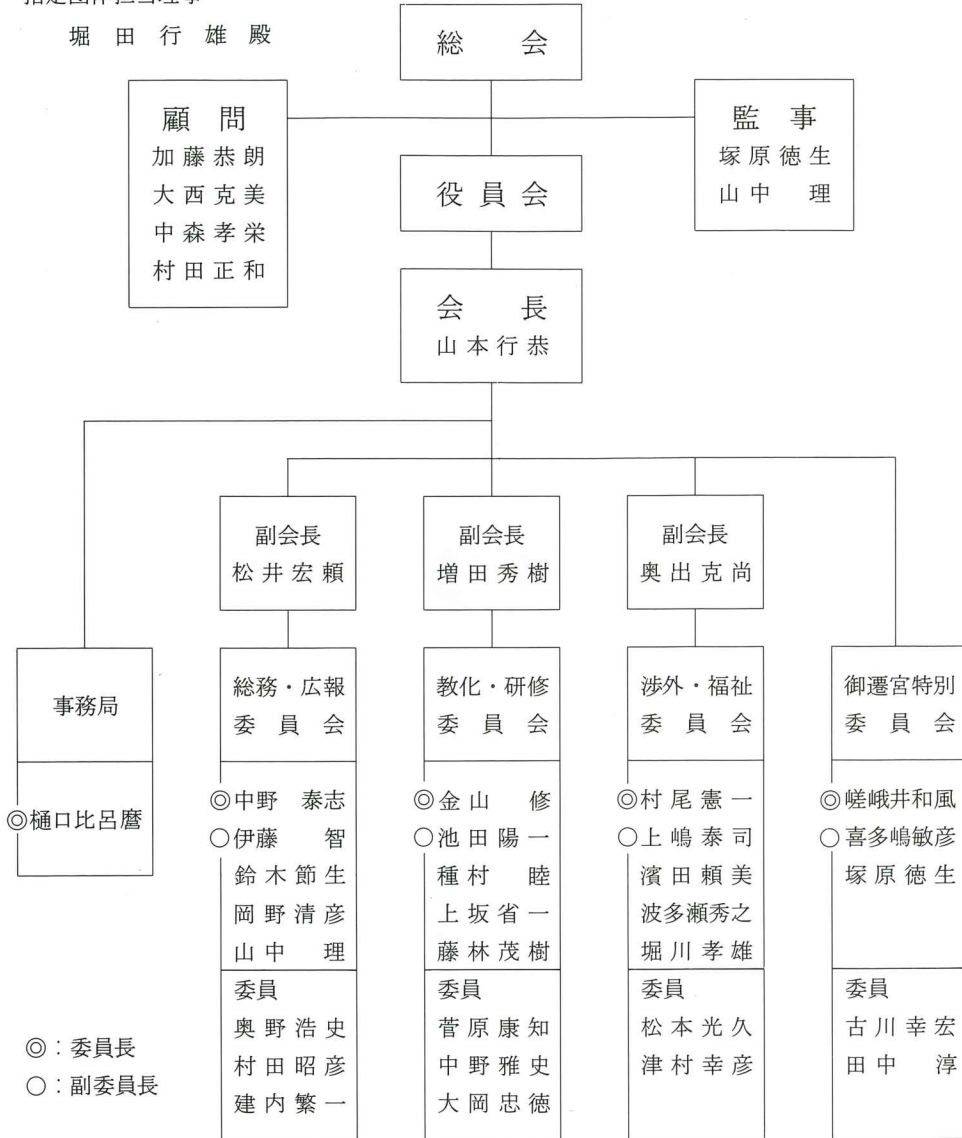
雲仙普賢岳義捐金送付の報告

三重県神道青年会では、雲仙普賢岳の被災地・被災者に対し、福祉事業の一環として、会員は固より奉職神社職員も含めて義捐金を募りましたところ、計四十二万二千円の募金が寄せられました。この義捐金は、去る平成三年十月四日、長崎県神社庁を通じて、被災支部・神社、並びに島原市及び深江町に届けられましたので、ここに報告致します。ご協力ありがとうございました。

十月二日 第七回役員会
三十日
三重県神社関係者大会
会員二十名奉仕
於・伊勢市観光文化会館
十一月六日 第八回役員会
二十六日
大麻領布促進運動
会長以下二十一名奉仕
於・桑名ネオポリス
三十日 「神青通信」発行
◎平成四年
一月二十日 第九回役員会
二月五日 第十回役員会
三月五～六日
御遷宮・禊研修会
総四十一名参加
於・神宮司庁、神宮会館
五十鈴川
二十三日 第十一回役員会

三重県神社庁
指定団体担当理事

堀田行雄殿



三重県神道青年会組織図

三重県神道青年会会報「榊葉」

優秀会報賞受賞

平成三年四月二十二日、神社本庁で開催された神道青年全国協議会の第四十三回定例総会にて、定例表彰として、三重県神道青年会が、三重県独特の個性を生かした会報「榊葉」の継続発行や、充実した四十周年記念誌発行等の理由で優秀会報賞を受賞。山本会長がこれを持ち帰り、県神青会定例総会の席上で披露した。

表紙写真説明

「胡蝶」

醍醐天皇の延喜六年、宇多上皇が童相撲を御覧になった時、藤原忠房が作曲し、敦実親王が舞を作られたといわれている。

(写真提供 神宮司庁)

会報「榊葉」

第18号

平成4年3月31日発行
発行者 山本行恭
編集 総務広報委員会
発行所 津市鳥居町210-2
三重県神社庁内
三重県神道青年会